

栽培種目：タカミレッド

タカミレッド栽培初挑戦の観察記録

チーム名：タカミレッド初挑戦

氏 名：佐々木甫

〈要約〉

タカミレッドの苗は、公益財団法人園芸植物育種研究所から入手した種をあげぼの山の温室で苗作りしたものを2株購入した。メロン収穫は畑での完熟を目指したが、食害で失敗した。メロン表面の網目がやや褐色を帯びたものを収穫し、表面がほのかな香りが漂うようになってから食しました。当初、メロン栽培は失敗したと思い、写真-1の下半分を食べたところ、スプーンで簡単にえぐれ、甘味が強く、これは成功であり、急遽写真を撮り報告するものです。

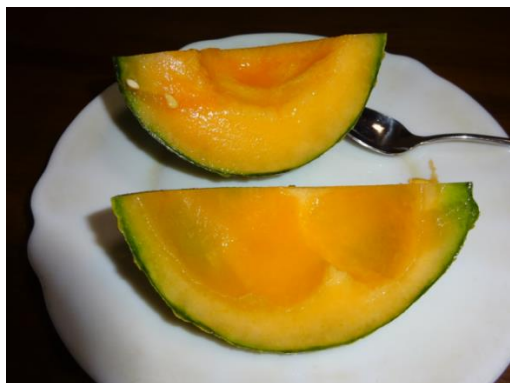


写真-1. 食したタカミレッド

1. 初めに

メロン栽培は初めてであり、諸先輩やネット情報で下記の栽培方法を原則とした。

- 黒マルチ仕様の地這栽培とする。
- 透明ビニールと寒冷紗で被覆する。
- 親づるを摘心し子づる4本立てとし、

果実は子づる2本に2果（孫づるに各1個）の計4果成りとする。

- 防虫対策の寒冷紗で被覆しているため、人工授粉とする。

2. 栽培経過

①植え付け4月22日：苗は牛糞堆肥と少量の化成肥料を全面散布した畝に2株を、苗間隔90cmで対角線に植えた。その後、裾あげした透明ビニールと寒冷紗で覆った。

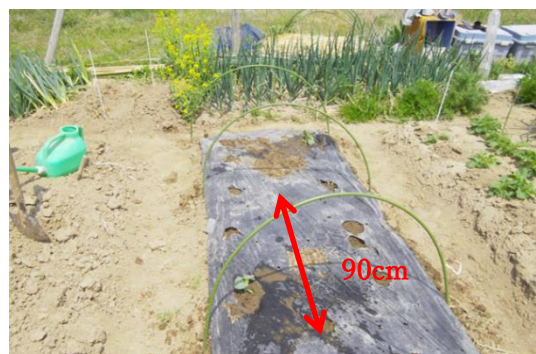


写真-2. 黒マルチ仕様で植えた

②子づる展開5/25(植え付け後33日)：3~4本の子づるが出てきた。また、雌花も咲いてきた。子づるの下に敷き藁を施した。果実の子づる2本に紐で目印とした。写真-3は、後に8節~10節程度まで除去して、食害をされた株である。

③6/26着果確認(植え付け後65日)：防虫ネットの寒冷紗で覆っているが、蟻がきている。写真-4の着果は10節目で人工授粉を



写真-3. 子づる展開状況 (後食害にあった果実の苗) 試みたが、蟻によるものか正確には判断できなかった。人工授粉はなかなか成功しなかった。小づる&孫づるの繁茂が著しく、果実小枝の確認に、毎回時間を要した。



写真-4. 果実が2個大きく成長してきた。

④果実の生育変遷: 果実の発達状況の写真を写真-5 に示す。

左上: 表面は細かい産毛に覆われている (写真-4 と同じ状況)

右上: 縦縞模様が明確になってくる。

左下: ネット模様が現れる (7/17 植え付け後 86 日: 当初の着果確認後 21 日)。

右下: 表面が褐色となる。(8/2 植え付け後 102 日: 当初の着果確認後 37 日)。写真上が直径 15cm、下が直径 18cm である。当初、褐色を日焼け気味と判断し、日よけにサトイモの葉で覆った。



写真-5. 果実の生育変遷 (下半分が写真-4)

⑤8/9 食害を確認 (植え付け後 109 日: 当初の着果確認後 44 日): 写真-6 のメロン (写真-5 の右下のメロン) は中に体長約 1cm 程度のウリハムシの幼虫 (白色ウジ虫) がいた。



写真-6. 食害 (8/9 植え付け後 109 日着果後 44 日)

3. 結果

- ① 8/16 (植え付け後 115 日: 当初の着果確認後 50 日? 着果未確認: 10 日程遅いはず?) に収穫した果実: 畑での完熟をあきらめ、写真-7 に示すよう網目が褐色をていしたものを収穫した。
- ② 8/25 (苗植え付け後 125 日: 収穫後 10 日) 食べた: 写真-7 のメロン表面が、



写真-7. 植え付け後 115 日のメロン
ほのかな香りがあるので食した。スプーンで簡単にえぐれ、甘味も強く完熟気味であった。直径は 12cm 程である。



写真-8. 果肉の軟らかいタカミレッド

4. 考察

- 「遊び小づる」2 本は着果小づるに栄養を届ける苗であり、雌花を除去するほかは自由にさせたが、繁茂すると、着果小づるの確認が容易ではなかった。
- **高温耐える作物:**透明ビニール内でも葉が萎れることなく、青々とした緑色を保てることができる。
- **人工授粉の成功率改善:**人工授粉は雌花がしおれた花をハサミで切り分けて、受粉していた。やはり、授粉時は雌花びらが開いた状態で、最低気温の注意しながら、朝 9 時~10 時頃におこなう必要がある。
- **完熟収穫:**畑での完熟収穫は確認していない。専門家によると「メロンに追

熟はなく、果肉が軟らかくなるのみ。果実肥大率は受粉後 21 日で 80%、28 日で 90%以上になる。糖度は受粉後 30 日で 5%、50 日で 12%、55 日で 16%となる」と言われ、受粉日の確認が必要である。

- **仕立て方:**子づる 4 本仕立てより、参考文献の子づる 2 本たての果実計 2~4 個の方が、雄花・雌花の確認が容易だ。

5. まとめ

10 月 9 日に、(公財) 園芸植物育種研究所の越智靖文科長にメロン栽培のノウハウを聞く機会があり、感謝しています。気が付いた点をまとめとして、次回リベンジしたい。

- **播種:**発芽適温は 28~30℃であり、育苗箱をトンネルで覆い、夜間は室内に取り込みアンカ座布団上等で養生する。
- **定植:**定植圃場の地温は地面下 20cm で 18℃以上、棒状温度計で確認する。
- **着果:**葉直径 10cm 以上から 13~16 節が着果位置である。理想的な着果小づるの長さは 20~25cm、交配 5~7 日前少量灌水して調整する。
- **灌水:**着果後は、整枝、摘芯、摘果、マット敷、収穫予定 10~12 日前まで十分な灌水による土壤水分を保つ。
- **収穫:**着果から 55 日程度、着果小づる葉の色抜け (Mg 不足で葉周辺の褐色化)。

参考文献

ネット情報:メロンの栽培方法とポイント：
タキイ種苗株式会社の野菜苗栽培方法
越智研究員 (園芸植物育種研究所)：相談メモ、2019. 11. 09